



Line Up

- 2 社会福祉法人八ヶ岳名水会常務理事 長田和也
- 3 家族会より～八ヶ岳名水会ツアーに参加して
- 4-5 瑞宝太鼓演奏会
- 6-7 生活支援センター陽だまりの日常
- 8-9 日野春學舎まつり
- 10-11 まめのはなりニューアル紹介／災害見舞金・物資
- 12 編集後記(26号)

26

平成 30 年 (2018)
12 月発行 26 号

新体制だよ！ コニヤニヤチワー♪

社会福祉法人八ヶ岳名水会 常務理事

長田 和也

星の里の管理者とともに法人の常務理事を仰せつかりました長田和也と申します。題字にて少々ふざけていると感じられる方もいらっしゃるかと思いますが、今年度の目標は「愛とユーモア」を掲げておりますのでご了承ください。

新体制と書かせていただきましたが、今年度、法人の運営体制が大きく変わりました。

法人が様々な事業を行うことにより、それに伴って事業規模が大きくなることにより、この地域の福祉を担って参りました。しかし、大きなものにつれて、決めごとや取り組みが煩雑になってしまったように感じます。

そこで、利用されている方、それを支えるスタッフが日々笑顔で過ごすため、基本的な報告・連絡・相談の体制を見直し、“誰かがやってくれる”のではなく、自分たちが責任を持って自分たちで今後のことを決め、それに向かって取り組んでいける組織作りを目指していく所存です。

まずは、現場が利用者さんの思いや願いをきちんとくみ取り、それを実現するためのスタッフを育成し、その活動を継続するための風通しのよい法人運営を行う。愛とユーモアを持って。利用者さんを守り、職員を守るような法人にするため、まずは働き方の改善を行っていきま。最初の取り組みとして、職場でのハラスメントについて学習会を行います。

職場でのハラスメントには、セクシャルハラスメント（セクハラ）とパワーハラスメント（パワハラ）があります。セクハラとは、「相手方の意に反する性的言動」のことで、パワハラとは、「同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係など職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える、または職場環境を悪化させる行為」のこととされています。

そうしたハラスメントについて、しっかりとした規定をつくり、自分の意見がきちんと言えて、それが現場に反映できる。そんな職場になるよう、少しずつではありますが変えていければと思っております。

利用者さんや職員の生活をしっかりとバックアップできる法人を目指します。みなさまのご理解とご協力をお願いします。



八ヶ岳名水会ツアーに参加して

八ヶ岳名水会家族会事務局
杉山浩子

9月27日、家族会全体での取り組みとして、八ヶ岳名水会ツアーを開催しました。きっかけは、「今、八ヶ岳名水会が何をやっているのか分からない。利用者をちゃんと見ているのか？どんな支援をしているのか？どんな事業をしているのか知りたい」という保護者の声からでした。

ツアーの内容は仁田坂さんに組んでいただき、午前中は菜の花、キッチンのはら、春の陽、のはら楽団。「まめのはな」にて昼食後、午後は星の里、北部グループホームを見学しました。

午前中は通所施設の見学が中心でしたが、日ごろの送迎などを通じて支援員と保護者の連絡がとれていることもあり、利用者が活動を行っている様子を改めて確認することができました。

午後は星の里とグループホームの見学でした。星の里の見学では、参加された保護者から、トイレや壁、居室といった施設内の老朽化についての意見や感想が多く聞かれました。「自分たちに何かできることはないだろうか」といった声も出てきました。

その後に見たグループホーム（ランタン）は、元々ペンションだったこともあって、星の里の二人部屋の居室と比べればゆつたりとした個室の生活空間が確保されており、保護者からは「自分の息子が入るとすれば星の里よりグループホームの方がいいと思うが、費用はどれくらい必要なのか？」といった質問が出ました。

八ヶ岳名水会は、星の里から始まったこともあり、以前は星の里の保護者が家族会をリードしてくださっていました。ですが、利用者だけでなく保護者も高齢化が進み、星の里の保護者の家族会への出席が難しくなっています。今回のツアーへの参加も、通所施設の保護者の出席がほとんどでした。今は自宅から通所施設に通っている自分たちの子どもが、いつかは入所

施設やグループホームを利用することを考えるてはいけません。だからこそ、今の入所施設の現状を知る必要があります。

介護の仕事をしている保護者から車イスの利用者を見て、「この方たちは高齢者施設の待機者ですか？」といった質問がありました。「え？ここで最期まで見てくれないんですか？」「グループホームは終の棲家になりますか？」といった声も聞かれました。支援と介護は違います。障がい者は特別養護老人ホームに入れないと思っている保護者もいます。名水会として、利用者の将来にどのような選択肢が用意できるのかを知りたいです。井戸端会議ではありませんが、こうした意見が聞かれました。

理解がなければ誤解が生まれますが、理解があれば協力することができます。家族会としては、名水会に感謝の気持ちを伝えると同時に子どもたちのニーズを伝えることができればと思っています。利用者の生活と将来のため、今後ともよろしく願います。



一期一会 ～瑞宝太鼓演奏会～

生活支援センター陽だまり
生活支援員

雨宮 果歩

平成30年9月9日須玉ふれあい館ホールにて名水会主催の瑞宝太鼓演奏会があり、長崎から瑞宝太鼓のメンバーが公演に来てくださいました。何と彼らは1年で百回は全国を飛び回っており、時には海外オフアームまで。とても忙しい日々を送っています。

私は司会として参加し、演奏をステージのすぐ近くから聴かせてもらっていました。サブタイトルの「響きわたる熱き鼓動」まさに彼らが演奏した瞬間、会場から自分の身体まで鼓動が深く響き渡り、息つく暇もなく鳴らし続ける力強い太鼓の音に、どんどん惹きこまれていきま



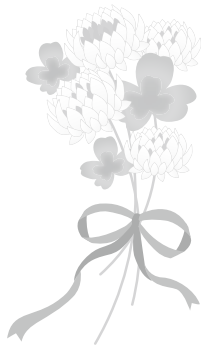
司会の雨宮（左）と窪川（右）

した。太鼓ってこんなに色々な音をみせてくれるのか、とプロの演奏のすごさを目の当たりにしました。

さらに、3団体が共演していただきました。

〈明野茅ヶ嶺太鼓保存会〉は、子どもたちと大人たちそれぞれの演奏。きっと初めは初心者だった子どもたちも大人たちの練習姿を見て憧





れ、太鼓の魅力を知っていき上達したのだらう
と思います。明野茅ヶ嶺太鼓、世代が変わって
も受け継がれて欲しいと思いました。ヘマリナー
ズはマリナさん率いる姉妹、お母さんによる
アンサンブル。3人のハモリは息もぴったり。
すてきな家族です。とても癒される時間でし
た。観客席から思わずアンコール。会場一体
となって手拍子で楽しみました。へ未来創作太
鼓・種まきーずは太鼓以外に様々な楽器を使っ
て歌と演奏を聴かせてくれました。思わず一緒
に踊り出したくなるような楽しいリズムと、自
然の恵みへの感謝がスツと伝わってきました。
カラフルな衣装が個人的に好きです。



公演は大盛況で、定員が四百名のホールいっ
ぱいに人が埋まりました。人前で話すのが大の
苦手な私は、一緒に司会をした窪川さん（企画
事業部部長）にフォローしていただきながら、
なんとか勤め上げることができました。いい経
験ができたと思います。何よりこの公演を通じ
て新しい出会いが生まれたことに感謝したいで
す。





地域の暮らしを支えていくために

生活支援センター陽だまりの日常

西へ東へ。明日はどっちだ！とあるスタッフに密着！

生活支援センター陽だまり サービス提供責任者 河手 知子

生活支援センター陽だまりは、在宅で暮らされている方、グループホームに入居されている方の日常生活のお手伝いをしています。法人内でも「センターって何してるの？」と言われてしまう、動きの分かりにくい部署です。今回は、そんなセンターのとあるスタッフの一日を紹介します。

地域と共に

北部支援チーム ぼーら 管理者 魚多 和輝

私がグループホームの地域支援の仕事をして12年になります。あの頃は若かった利用者さんもいつの間にか高齢化が進み、利用者さんの状況に合わせて支援の内容や住まいの環境も変化してきました。

先日、グループホームに見学に来た保護者の方から「うちの子はグループホームの利用できないですよね？」「グループホームは増やすことはできないのでしょうか？」とお話がありました。

グループホームはどんな障がいがある方でも利用できます。グループホームで暮らすためにこれができるれば住めないというものはありません。何をどのようにお手伝いをしていけばその方が暮らしていけるかを考えます。悩まずに、まずはどんな形でも結構ですので相談していただければ道は開かれていくと思います。

グループホームを増やすためには支援者も増やす必要があります。予算も必要です。建てる地域の理解も必要です。

この地域は、星の里の活動を通して理解を深めていきました。しかし、新しく移住してきた方々にはなかなか理解が進まないのも現状です。国では施設から地域へとの働きかけがあり



10:30

【移動支援】
(30分)

薬が増えて落ち込んでいるAさんを励ましなが、通院恒例のコーヒーを購入。日中活動先まで送迎し引継ぎ。併せて通院報告書を作成。



9:30

【通院等介助】
(60分)

北病院受診付き添い。医師に生活の様子をお伝えする。季節の変わり目によるためか、眠れない日が続いている。就前薬が一錠増える。



9:00

【移動支援】
(30分)

Aさん。20代男性。
北病院まで送迎。いっしょにお気に入りのCDを聴きながら、外出の計画の話をしました。



8:45

【出勤】

日野春學舎出勤。公用車に乗り換えて出発。
車両点検を忘れずに。





21:00

【退勤】

算段を終える頃には日野春學舎はすっかり静かに。見回りをしながらセキュリティをセットして退勤。お疲れ様でした！
(ちなみに、この日の移動距離は102kmでした。)



19:30

【算段】

日野春學舎に戻って明日のスタッフの勤務の振り分け(算段)をします。日々の暮らしの支援は体調を崩したりアクシデントがあったり前日まで調整が欠かせません。二人以上で確認しながら利用者さんに予定を、スタッフに勤務を伝えます。



17:00

【グループホーム支援】
(120分)

荏苒市内のグループホームに行き、世話人さんから利用者さんの様子を確認。利用者さんたちと話をする。車で5分の別のサテライト型グループホームに行き、独り暮らしのDさんと夕食作り。



14:30

【休憩】

14時30分から17時が今日の休憩時間。センタースタッフの勤務時間は朝7時から夜21時のうち8時間。途中で休憩が入ります。一度帰る人もいれば買い物に行く人も。



13:30

【家事支援】
(60分)

食事作り・掃除・洗濯。糖尿病を患われているため野菜中心のメニュー。入浴されているか、さり気なく確認。部屋の汚れ方は精神状態のバロメーター。日用品の在庫をチェック。



12:00

【重度訪問介護】
(60分)

Bさん。40代女性。
脳性麻痺で独り暮らしの方。内職で在宅ワークをされている。休憩時間にお邪魔してサラダとカレーライスを作る。トイレ介助。寒くなったので布団を干して夏用から冬用に交換。
Cさん。60代男性。
食事作り・掃除・洗濯。糖尿病を患われているため野菜中心のメニュー。入浴されているか、さり気なく確認。部屋の汚れ方は精神状態のバロメーター。日用品の在庫をチェック。



ますが、国の考えと地域の理解とは離れているのが現状です。
グループホームに住みたい、グループホームの必要性を感じている方は大勢いらっしゃると思います。

自宅で家族の支えを受けながら生活をしている方の中にも、家族の高齢化など様々な事情で今後の生活に不安を抱えている人が多くいます。グループホームの整備が進めば、ご本人ご家族の将来の生活への不安を軽減することが出来ます。

グループホームでは、利用者さんの希望や目標によって、利用者さん自身が食材の買い物や調理、掃除や洗濯など身の回りのことをするように支援します。グループホームの利用者さん同士で共に支え合って暮らすことで役割分担が生まれ、社会性が培われ、自立への一歩が踏み出されていきます。

重度・高齢の利用者さんは障がいや歳を重ねることによって身体機能が低下していても、支援を受けながら残存機能を活用することによって、日常生活を送る機能をある程度保ちながら、家庭的な環境の中で落ち着いて生活を送ることが出来ます。

高齢者や障がい者が地域で共に生活するために(＝ノーマライゼーション)とありますが、グループホームが増えていかなければ背景には人手不足、建築費用などの問題に加え、さらに差別や偏見が根深くあるのではないのでしょうか。

差別や偏見の根底には「よくわからない」というものが必ずあります。そこをお互いに知ること、差別や偏見はなくなっていくと思います。地域の中で、何気ない日々の挨拶をはじめ、地域行事への参加、また法人行事への招待など、触れ合いを深めることで理解の波は人から人へ広がっていくと思います。

これから高齢者・障がい者・健常者が共に住みよい地域にしていくため、まずは自分たちが居るこの地域から変えていくよう努力していきます。

地域という大きな家族を築いていくために ～日野春學舎まつり～

キッズクラブひまわり
児童発達支援管理責任者
高橋 昌也

八ヶ岳名水会が長坂下条に春の陽農場を開いたのが平成12年になるので、日野春地区で活動を始めて18年目ということになります。当初は桑畑の中にビニールハウスが建っているだけ……他の建物や畑は利用者さんとスタッフと共に一から作ったと聞いています。

私が仕事を始めた平成19年当時、日野春小学校には地域の子供たちが元気に通っていました。が、児童数の減少から平成24年度末に惜しまれつつ閉校となりました。平成25年度、当法人は北杜市から廃校となった旧日野春小学校を借り受け、「日野春學舎（ひのはるがくしゃ）」と名付け活動を始めました。この名前には、この場所が、地元の方々が140年余に亘って大事に守ってこられた学校であるという歴史を受け継ぎ、これからも沢山の人が集って学び合う學舎（まなびや）であり続けるように、との想いを込めました。

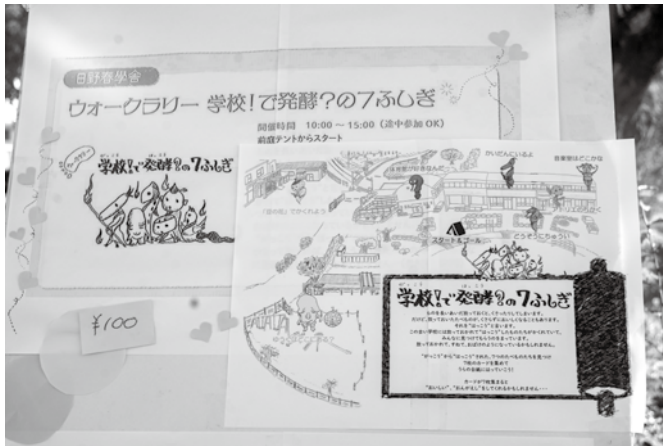
日野春學舎まつりは、この想いを実現させるために起こした新しい企画です。具体的には「地域の方々と私たちを含めた新住人との交流」「日々の生活に埋もれている地域の素晴らしい資源の再発見」「地域の皆さん、利用者さん、スタッフが共に楽しめる」ことを実現するため話し合いを始めました。



日野春學舎まつりアート

地域の方達で味噌を手作りしていることを知ったのをきっかけに、私たちが当たり前口に入っているからこそ、注目されることの少ない「発酵」をテーマに決めました。

ワークショップとして「塩こうじ、だしこうじ、仕込み味噌」といった発酵食品作り。地域の団体にご協力をお願いして、綿のいとなみ「わわのわ」さんの綿の加工体験、「八ヶ岳ふるさと倶楽部」さんの蚕から絹糸の取り出し体験、「長坂下条老人クラブ」さんのわら縄織り体験



日野春学舎まつりウォークラリーイラスト

ができることとなりました。

また、近隣のお店や農業大学校に、地域の食材を中心とした出店をお願いしたり、まめのはなではお豆腐やお弁当に発酵食材を絡めて出品したり、子供たちが楽しめる発酵の七不思議ウォークラリーや秋の木の実を集めてクリスマスツリーや太鼓を作る計画をしたりと、皆が楽しめるアイデアが出そろいました。

そして、ステージでは、福岡市のある保育園での元気な園児の姿や、自分たちが飲むみそ汁

の味噌を毎月仕込む様子を優しく切り取った映画「いただきます みそをつくるこどもたち」の上映会と、長坂下条区の「大正琴の会」をはじめとした、地域のアーティストと利用者さんの発表の場を設けました。

おまつり当日、気持ちの良い秋晴れの中、遊びに来た人たちが日野春学舎に吸い込まれていきます。笑顔で買い物をしたり、真剣な表情で映画を見たり、手を動かして造ったり、一緒になって踊ったり、怖がりながら校舎のなかを探し歩いたりと皆それぞれです。

一つのテーマを様々な立場の人たちで共有することが相互の理解に繋がります。お互いを知ることが、当法人が目指す「地域という大きな家族」を築いていく始めの一步となり、日野春学舎まつりを通じ、私たちはこの目的に近づいたのではないのでしょうか。

最後に、ご協力してくださった皆様に感謝の気持ちをお伝えして締めさせていただきます。

ご多忙の中、ご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございます。私たちと関わる全ての人たちで作り上げていく「日野春学舎まつり」を、今後とも宜しくお願い致します。

『お昼ごはん まめのはな』

リニューアルしました！

のほら楽団 就労移行支援員

宇佐美 舞衣

今年の五月より、「豆の花食堂から「お昼ごはん まめのはな」にリニューアルしました。元々JAで使っていた事務所を借りて、内装を古民家カフェにアレンジをしました。今まで蕎麦屋と豆腐定食屋を掛け持ちしていましたが、

現在、豆腐定食のみに絞って営業しております。

季節によってメニューは変更されますが、豆腐ハンバーグランチ・まめのはなオリジナルカレーランチ・日替わりランチを展開しています。日替わりランチは、豆腐からあげ



や揚げ出し豆腐、厚揚げのはさみ揚げなど、すべて手作りでご提供させていただいております。詳しくは電話または来店された時にスタッフにお尋ねください。

まめのはな

では、ランチを提供するにあたり多くの利用者さんが関わっています。一人ひとりができることを活かして、洗い作業、皮むき作業、包丁作業、調理補助作業など様々なことを役割分担しています。また、接客にも携わり、注文を受けることや配膳も行っています。

最近では、お店に一般のお客様が立ち寄って



知的障害者支援協会
日本赤十字社
社会福祉法人ゆうゆうに
災害見舞金・物資を
送りました。

今年は、7月に台風7号による西日本豪雨、9月に台風21号による関西地方への被害、あるいは9月6日に最大震度7を観測した北海道胆振東部地震というような大災害が多く発生しております。

当法人では、8月5日に開催した星の里夏まつりでのバザーでの売り上げにカンパを合わせた2万円を西日本義援金として知的障害者支援協会に、9月9日に開催した瑞宝太鼓演奏会での募金1万8千円を災害見舞金として日本赤十字社にそれぞれ寄付しております。

また、北海道にある社会福祉法人「ゆうゆう



お昼ごはん まめのはな

山梨県北杜市長坂町長坂下条 1520-1 Tel/Fax 0551-32-8234

くれることが多くなりました。その際、お客様に「まめのはながどのような店か伝わるように」と玄関と各テーブルに下記のように掲げています。

みなさんのお昼の時間を私たちにお手伝いさせてください。また、様々な障がいをもっている人が、より地域で暮らしていけるようにと願っています。

(福) 八ヶ岳名水会 のはら楽団 お昼ごはん「まめのはな」

日本人が1日3食ご飯を食べるようになったのは江戸時代からです。それまでは朝・夕の2回のみでした。米の収穫量の増加により食料の確保が容易になったことや、肉体労働者の増加によって2食では労働に耐えられないことから昼食も摂るようになりました。それは現在にも引き継がれ、今日ではほとんどすべての人が昼食を摂っています。「働けばお腹が空く」ということは全ての人に共通することで、障がいを持つ方もそうでない方も変わりはありません。ここ、八ヶ岳名水会 のはら楽団では障がいを持つ方がおやつや豆腐を作っています。様々な仕事を様々な方々が一緒にに関わりながら仕事をしています。そして「まめのはな」もそのひとつ。美味しいお昼ごはんをより多くの方に提供したいという想いで日々働いております。

「まめのはな」にお越しくださった皆様全ての方の、午後からの、明日からの活力のサポートになればと思います。皆様にとって大切な「食べる」ということ、昼食のお時間を是非、私たちにお手伝いさせてください。



※10月5日～7日の研修にて当法人のスタッフが北海道を訪れた際に、「ゆうゆう」の大原裕介理事長（写真中央）に義援金を手渡しました。

う」の法人事務所を活動拠点として、仁田坂洋子部長を中心に水や食料品、オムツ、カセットコンロ、といった支援物資を運搬。9月29日には尾白の森名水公園べるがにて「北海道応援！チャリティーライブ」を開催し、集まった義援金176,485円を義援金として送りました。

ご協力いただいた皆様にお礼を申し上げるとともに、一日も早い復興を祈念致します。

ありがとうございました！

○表紙を飾ってくれた方
グループホーム「ランタン」の利用
者の皆様と職員

暖房器具寄付のお願い

ハケ岳名水会「星の里」では、ストーブ
やヒーターといった暖房器具の寄付をお願
いしております。利用者さんの活動拠点な
どに置きたいと思っております。皆様のご
理解とご協力をお願いします。
問い合わせ連絡先

星の里 0551-32-7355

イベント情報

ハケ岳名水会「キッズクラブひまわり」主
催、第13回友だちの輪コンサートが行われ
ます！

日時：平成31年2月2日(土)

13時開場 13時30分開演

場所：長坂コミュニティホール

問い合わせ連絡先：キッズクラブひまわり

0551-32-5855

編集後記

『発達障害に生まれて——自閉症児と母
の17年』（松永正訓／中央公論新社）という
本を読みました。例えばトイレのジェットタ
オルを嫌がる息子のために「ジェットタオル
のないトイレマップ」を作る。療育手帳を取
得し、精神科病院を受診し、支援学校に通う。
将来について考える。そんな自閉症と診断さ
れた息子とその母の17年間の日常生活と、将
来への不安と希望といったものが率直につづ
られているルポです。

利用者さんの生活を支援することが私たち
の仕事ですが、日頃の支援の中でご本人やご
家族の想いに応えることの大切さを改めて感
じました。

今回の「虹いろ」は、生活支援センター陽
だまりについての記事を真ん中に持ってきた
ました。イベントや研修の報告も重要ですが、
私たちが日常的に行っている利用者さんへの
生活の支援と、そこから浮かび上がってくる
利用者さんの日常。そつした当たり前の日々
を伝えることが大切だと考えたからです。

私たちの日頃の支援も「虹いろ」も、ご本
人のご家族の想いに応えるものにしたいた
いと思っております。感想や要望などございま
し
たらお気軽にお寄せください。

相

社会福祉法人 ハケ岳名水会

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間 1095-7

TEL 0551-32-7355 FAX 0551-32-7350

E-mail hoshinosato@y-meisui.or.jp

URL y-meisui.or.jp/

印刷 株式会社ピー・エス・ワイ

広報委員スタッフ

廣瀬政光 穂坂雄太（菜の花）由井美涼（のはら楽団）遠山萌（星の里）

江口紗枝実 中仙道涼子（春の陽）魚多和輝 原麻美（ぼーら）河手知子 小松寛明（陽だまり）

錦見祐治（相談部）相吉謙輔（企画事業部）奥村仁美（法人事務局）

